

おかしいな、
と思ったら
すぐに
チェックを

令和2年
最新
保存版

病院でいま一番 よく使われている 「1000の薬」と その副作用

降圧剤・糖尿病薬。
胃腸薬・鎮痛剤。
便秘薬・睡眠薬。
痛風薬・花粉症薬。
ステロイド……
その不調、薬のせい
かもしません



薬の副作用は日々新たに見つかっている

め

まいがして、ふらつく。歯茎が腫れています。少し動くだけで息切れがする……。

いつも「歳せいだらう」と思つて、我慢しているその不調は、長年飲み続けている薬の副作用の可能性がある。

実は、薬の副作用は日々、「追加」されていつている。発売前にも臨床試験は行われるが、安全のため、治験の対象者は健康に問題の少ない人に限られる。それゆえ、発売後、多くの人に使われたときに、初めて明らかになる副作用は数知れない。また、他の薬との飲み合わせで生じる副作用もある。

特に高齢者は副作用が起きやすいので、注意が必要です。薬の成分は、腎臓や肝臓を通って尿として排出されていきます

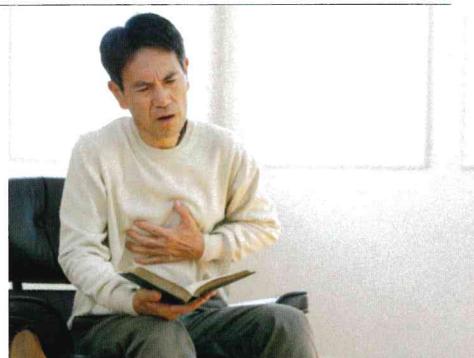
が、加齢とともに、腎機能や肝機能は衰える。そのため、高齢者は薬の成分が身体に残りやすく、副作用に見舞われやすいのです。(新潟大学名誉教授・岡田正彦氏)

今回本誌では、厚労省が19年9月に発表した薬の処方数データ(第4回NDBオープンデータ)。

内服薬外来(院外)。診療年月・H29年4月(H30年3月)をもとに、病院でいま一番よく使われている薬を100種、リストアップした。次ページから始まる表は、その一つ一つに、最新の副作用情報を記したものだ。

不調を感じたら、この冊子の薬品名を見てほしい。きっとあなたが日常的に飲んでいる薬があるはずだ。気になる症状がなら、医師に相談のうえ、

が、加齢とともに、腎機能や肝機能は衰える。そのため、高齢者は薬の成分が身体に残りやすく、副作用に見舞われやすいのです。(新潟大学名誉教授・岡田正彦氏)



薬を減らしたり、やめたりしてもいいだろう。驚くほど体調が良くなる場合がある。

処 方数の多い薬の大半を占めたのは、降圧剤ならARB、糖尿病の薬ならDPP-4阻害薬といった「新しい薬」だ。

だが、「新しい=良い」というわけではない。「多くの医師が新薬を信仰しているため、古くか

らある安全な薬が、処方数の上位にのぼらなくなつてしまっているのです。

新しい薬であればあるほど、血圧や血糖値を下げる効果が高い。ですが、

高齢者の場合は、薬が効きすぎて、低血圧や低血糖に陥り、ふらついて転倒するリスクが高まつてしまします。大腿骨を骨折して寝たきりになつたり、死亡する事例も少なくありません(前出の岡田氏)。

「薬にはもちろんメリットがあります。問題は、その使い方を誤っていることなのです。生活習慣

病の薬をはじめ、痛み止めや入眠薬など、何種類もの薬を漫然と使い続けられれば、当然、副作用のリスクも高まります。

「配合薬を飲んでいる患者さんでは、一方の薬が不要になつていても、惰性で使われ続けているケ

「配合薬を飲んでいる患者さんでは、一方の薬が不要になつていても、惰性で使われ続けているケ

ースが散見されます。改めて、薬のリスクを思ふことが大切です」

こうした薬を「一度飲み始めたらやめられない薬」だと思ひ込まずに、薬に頼らない道を考えることが大切です

すべての薬には副作用がある。この冊子を見て改めて、薬のリスクを思ふことが大切です

薬の副作用100①

種類	商品名(一般名) / 分類	副作用
降圧剤	アイミクス(イルベサルタン/ アムロジピン) ARB・Ca拮抗薬	'16年、副作用に急性腎不全が追加された。尿量の減少や褐色の尿、血尿が出たら注意
	アジルバ (アジルサルタン) ARB	血管がむくんで、まぶたや唇、舌が腫れることがある。気道が塞がって窒息死する恐れもある
	アダラート (ニフェジピン) Ca拮抗薬	全身の皮膚が赤くなり、ただれることがある。勃起不全が起きるとの報告もある
	アーチスト(カルベジロール) β遮断薬	交感神経の働きを抑えて、心臓の過剰な働きを抑える薬。增量時に、失神を起こすこともある
	アテレック(シルニジピン) Ca拮抗薬	足の甲、くるぶし、まぶた、手指がむくみやすい。服用期間が長いほど、発症の確率が高くなる
	アバプロ(イルベサルタン) ARB	痛み止め(NSAIDs)と併用すると、もともと腎臓の悪い人は、病状を悪化させるおそれがある
	アムロジン(アムロジピン) Ca拮抗薬	歯茎が腫れて、歯が抜けることがある。長期服用後に起こるため、医師も副作用だと気づきにくい
	アルダクトン(スピロノラクトン) K保持性利尿薬	心不全合併者に処方されることが多い。男性は乳首が腫れて痛むなど、性ホルモンの副作用が出る
	イルベタン(イルベサルタン) ARB	ラジレス(降圧剤)と併用すると、腎障害や高カリウム血症、低血压などが発生しやすくなる
	エックスフォージ(バルサルタン/ アムロジピン) ARB・Ca拮抗薬	心臓の障害が起きて、脈が飛ぶ、脈が遅い、胸が苦しい、ふらつく、失神などの症状が出る
	オルメテック(オルメサルタン) ARB	重い腸疾患を引き起こすなど、安全面に問題があり、フランスでは'17年に保険適用から外された
	セララ(エプレレノン) K保持性利尿薬	高カリウム血症になることも。カリウム濃度が高くなると、不整脈、心停止のリスクが高まる
	ディオバン(バルサルタン) ARB	'13年に臨床試験のデータが改竄されていたことが明らかになり、有用性に疑いがもたれている
	ナトリックス(インダパミド) 非チアジド系降圧利尿剤	糖尿病や痛風が悪化することも。アーチスト(降圧剤)との併用で血糖値が高くなりやすくなる
	プロプレス(カンデサルタン) ARB	意識を失うほどの眠気に襲われやすい。服用後の突然の眠気で、交通事故を起こした人もいる
	ミカムロ(テルミサルタン/ アムロジピン) ARB・Ca拮抗薬	傷口をふさぐ作用をもつ血小板が減少して、あおあざや、鼻血、歯茎からの出血に見舞われる
	ミカルディス(テルミサルタン) ARB	筋肉の成分が血液中に流れ出す副作用がある。手足がしびれる、力が入らないといった症状に注意
	ラシックス(フロセミド) ループ利尿薬	利尿薬のなかでもっとも効き目が強い薬の一つ。高齢者の場合、特に脱水を起こしやすい
	レザルタス(オルメサルタン・ アゼルニジピン) ARB・Ca拮抗薬	長期服用で、体重減少を伴う重度の下痢に見舞われやすい。高齢者では脳梗塞が起こることもある
	レニベース(エナラブリル) ACE阻害薬	アレルギー反応を引き起こすこともある。高い頻度で、痰を伴わない空咳が出ると報告されている



薬の副作用100(2)

種類	商品名(一般名) / 分類	副作用
糖尿病の薬	アマリール(グリメピリド) スルフォニル尿素系	ベネシッド(痛風の薬)、ワーファリン(抗凝固薬)と併用すると、血糖値が下がりすぎる恐れも
	エクア(ビルダグリプチン) DPP-4阻害剤	膝の裏側、わきの下、太ももの付け根などに強いかゆみを伴う水泡ができるという報告例がある
	エクメット(ビルダグリプチン/メトホルミン) 配合薬*1	降圧剤のACE阻害薬と併用すると、血糖値降下作用が強まって低血糖になり、ふらつく恐れも
	グラクティブ (シタグリプチン) DPP-4阻害剤	関節炎を起こす副作用がある。消化器系や前立腺のがんを合併する疾患になる恐れがある
	ジャヌビア (シタグリプチン) DPP-4阻害剤	重い副作用として脾炎が報告されている。フランスでは保険適用に制限がかけられている
	スイニー(アナグリプチン) DPP-4阻害剤	腸閉塞が起きることがある。長引く腹痛、腹部膨満、ひどい便秘、嘔吐が起きたら要注意
	セイブル(ミグリトール) α-グルコシダーゼ阻害剤	腸内でガスが発生して腹部膨満に。消化管穿孔や腸管壊死などの重い副作用に繋がることも
	テネリア(テネリグリプチン) DPP-4阻害剤	特に高齢者では、薬が効きすぎることで低血糖になりやすい。ふらついて転倒骨折することがある
	トラゼンタ(リナグリプチン) DPP-4阻害剤	間質性肺炎を発症することがある。たん、息苦しくて呼吸がしにくい、発熱などの症状に注意
	ネシーナ(アログリプチン) DPP-4阻害剤	アクトス(糖尿病治療薬)と併用すると、むくみが出ることがある。足の甲や足首に起こりやすい
脂質異常症の薬	メトグルコ(メトホルミン) ビグアナイト系	血液に乳酸が溜まり、吐き気や下痢に襲われることがある。特に、飲酒前の服用は避けたい
	EPLカプセル(ポリエンホスファチジルコリン) 肝臓疾患用剤	善玉とされるHDLコレステロールを増やす薬。ときに、軟便や吐き気などの胃腸症状が出る
	クレストオール(ロスバスタチン) スタチン	年間7億6000万錠以上処方*2。服用開始後5日以内に首・肩などの筋肉痛、脱力感が出やすい
	ゼチーア(エゼチミブ) 小腸コレステロールトランスポーター阻害剤	空腹時の血糖値が上昇するという報告がある。特に、インスリン製剤を併用している人に多い
	ベザトール(ベザフィブラーート) フィブラーート系薬	肝機能障害を起こす恐れがある。食欲不振、白目や皮膚が黄色くなるなどの症状が出たら病院へ
	メバロチン(プラバスタチン) スタチン	髪がごっそりと抜けるようになったという報告がある。特に、60代~70代の女性で多い
	リバロ(ピタバスタチン) スタチン	空咳、息苦しさ、発熱などの症状に襲われる間質性肺炎を発症することがある
	リピディル(フェノフィブラーート) フィブラーート系薬	スタチンと併用すると、筋肉の成分が血液に溶けだして、手足にしびれ・脱力感が出やすい
	リピトール(アトルバスタチン) スタチン	FDA*3は、もの忘れ、記憶障害、錯乱が報告されていると発表し、注意喚起をしている
	ロトリガ(オメガ-3脂肪酸エチル) EPA・DHA製剤	中性脂肪を減らす薬。血が止まりにくくなるので、抜歯や手術前の服用を控えたほうがいい

*1 DPP-4阻害剤・ビグアナイト系 *2 厚生労働省「第4回NDBオープンデータ」の「内服薬 外来(院外)」より(診療年月:H29年4月~H30年3月)。なお錠数は100万以下を切り捨てて表示 *3 アメリカ食品医薬品局

薬の副作用100③

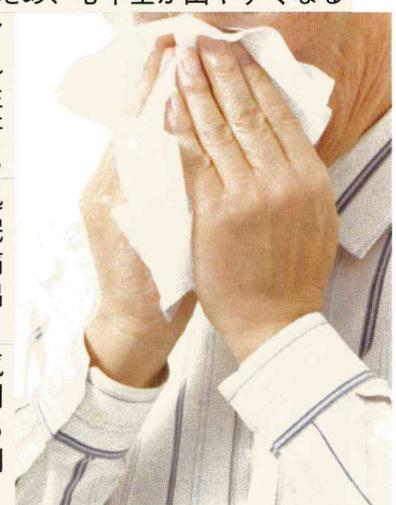
種類	商品名(一般名)/分類	副作用
血液サラサラの薬	イグザレルト(リバーロキサバン) FXa阻害薬	PMDA ^{*1} で脳出血の報告例が多く、発売開始の'12年から'15年末まで275件の死亡例があった
	エリキュース(アピキサバン) FXa阻害薬	眼が充血したり、眼から出血することがある。症状が出たら、眼科医に相談したほうがいい
	プラザキサ(ダビガトラン) トロンピン阻害薬	セイヨウオトギリソウ(セントジョーンズワート)を含む健康食品との併用で効果が弱まる
	リクシアナ(エドキサバン) FXa阻害薬	ロキソニン、ボルタレンなどの鎮痛薬(NSAIDs)と併用すると、出血するリスクが高まる
	ワーファリン(ワルファリン) クマリン系薬	効き目が強いため、小さな傷でも出血が止まらなくなる。消化管出血や脳出血で死に至ることもある。
	ガスター(ファモチジン) H ₂ 受容体拮抗薬	白血球、赤血球、血小板が減少する重篤な貧血を起こすことがある。漫然と飲み続けるのは避ける
	セルベックス(テプレノン) 防御因子増強薬	重い肝機能障害を起こすことがある。食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる、茶褐色の尿に要注意
	タケキャブ(ボノプラサン) PPI	主な副作用は便秘。クラリス(抗生素)との併用で、PPIの血中濃度が高まり、副作用が強力に
	タケプロン(ランソプラゾール) PPI	PPIのなかでも、慢性的な下痢に襲われる事例が多い。服用開始から1~2カ月後に起きやすい
	ドグマチール(スルピリド) ベンザミド系抗精神病薬	'73年に発売開始。75歳以上で、筋肉がこわばる、ふらつくなどパーキンソン症状が出やすい
胃薬	ネキシウム(エソメプラゾール) PPI	PPIは認知症や心筋梗塞、脳卒中のリスクを高めるとの報告もある。短期服用に留めたほうがいい
	バリエット(ラベプラゾール) PPI	血液中のナトリウムが減少して、吐き気、嘔吐、意識朦朧、けいれんに襲われることがある
	プロマック(ポラプレジンク) 防御因子増強薬	長期間飲んでいると銅欠乏症が出ることがある。貧血になり、息切れや立ちくらみに襲われる
	ムコスタ(レバミピド) 防御因子増強薬	年間3億9000万錠以上処方 ^{*2} 。鎮痛薬の服用による胃炎を防止する処方が多い。発疹が出ることも
	カロナール(アセトアミノフェン) アセトアミノフェン	'11年から增量使用が可能になったが、特に高齢者は、多量に飲み続けると肝障害が起りやすい
痛み止め	セレコックス (セレコキシブ) NSAIDs	海外では、同タイプの薬で心筋梗塞、脳卒中のリスクが増える可能性があるとされている
	トラムセット(トラマドール・ アセトアミノフェン) オピオイド(非麻薬)	抗不安薬など脳の神経を鎮める薬と一緒に飲むと、けいれん、呼吸抑制が起きやすい
	ノイロトロピン(ワクシニアワイ ルス接種家兎炎症皮膚抽出液) 鎮痛補助薬	舌がしびれる、食べものの味がわからなくなるなどの味覚障害が生じた報告がある
	ロキソニン(ロキソプロフェン) NSAIDs	降圧剤と利尿薬を併用していると、急性腎不全になるリスクが急増するとの報告もある
	ロルカム(ロルノキシカム) NSAIDs	高齢者は、消化管の障害に襲われやすい。黒いタール状の便が出たら、腸内で出血している証拠

*1 医薬品医療機器総合機構 *2 前出の「第4回NDBオープンデータ」の「内服薬 外来(院外)」より



薬の副作用100④

種類	商品名(一般名) / 分類	副作用
入眠薬・抗不安薬	コンスタン(アルプラゾラム) ベンゾジアゼピン系	息切れ、息苦しさ、起床時の頭痛に襲われやすくなる。特に、もともと呼吸器が弱い人に多い
	サイレース(フルニトラゼパム) ベンゾジアゼピン系	依存性が非常に強いため、アメリカや韓国では麻薬に分類して、厳しい使用制限を課している
	セルシン(ジアゼパム) ベンゾジアゼピン系	筋肉の緊張を緩和させる作用があるため、ふらつきや、脱力感に襲われやすい。転倒に要注意
	ソラナックス(アルプラゾラム) ベンゾジアゼピン系	別の抗不安薬や抗うつ薬と併用すると、効き目が強く出すぎたり、副作用が出やすくなって危険
	ハルシオン(トリアゾラム) ベンゾジアゼピン系	攻撃性が増す問題が注目され、オランダでは販売が禁止され、イギリスでは保険適用から外された
	マイスリー(ゾルピデム) 非ベンゾジアゼピン系	アメリカで、自動車事故を起こしたのに運転していた自覚がまったくない事例があり、問題に
	メイラックス(ロフラゼプ) ベンゾジアゼピン系	作用時間は100時間以上。副作用で興奮したり、取り乱して、かえって眠れなくなることもある
	ルネスタ(エスゾビクロン) 非ベンゾジアゼピン系	口の中が苦い、舌がしびれる、食べ物の味が分からぬなどの味覚異常があらわれることがある
	レンドルミン(プロチゾラム) チエノジアゼピン系	夜間に起きた際の行動を覚えていないことが多い。夜中のトイレで転倒骨折することがある
	ワイパックス(ロラゼパム) ベンゾジアゼピン系	長い間飲み続けると、やめにくくなる。急に中止すると、強い不安感、不眠、幻覚があらわれる
花粉症・アレルギーの薬	アレグラ(フェキソフェナジン) 抗ヒスタミン薬	おもな副作用は頭痛、眠気、吐き気。車の運転、危険を伴う機械の操作や作業は避ける
	アレロック(オロパタジン) 抗ヒスタミン薬	ヒスタミンはけいれんを抑える働きを担っている。薬が脳に入ると、手足の震えが起きやすい
	オノン(プランルカスト) ロイコトリエン受容体拮抗薬	間質性肺炎になることがある。空咳、息苦しさ、少し動くだけで息切れするなどの前兆に注意
	ケタス(イブジラスト) メディエーター遊離抑制薬	血小板が減少する恐れがある。血尿や血豆、あおあざが生じたり、血が止まりにくくなる
	ザイザル(レボセチリジン) 抗ヒスタミン薬	サンリズム(抗不整脈薬)との併用で、両剤の血中濃度が上昇するため、心不全が出やすくなる
	シングレア (モンテルカスト) ロイコトリエン受容体拮抗薬	新しい種類の抗アレルギー薬。まれではあるが、急性肝不全など重い肝障害になることがある
	タリオン (ベポタスチン) 抗ヒスタミン薬	年間4億錠以上処方されている*。眠気、だるさ、頭痛などの副作用があることがある
	ディレグラ (フェキソフェナジン/ プロソイドエフェドリン) 抗ヒスタミン薬	喘息などで使う気管支拡張薬(β 刺激薬)と併用すると、動悸などの副作用が強まる
	デザレックス(デスロラタジン) 抗ヒスタミン薬	筋肉のびくつき、ふるえ、白目、硬直、全身けいれん、意識消失などの症状が報告されている
	ピラノア(ピラスチン) 抗ヒスタミン薬	肝機能障害が起こることも。だるさ、食欲不振、茶褐色の尿が出たら、病院にかかるほうがいい



*前出の「第4回NDBオープンデータ」の「内服薬 外来(院外)」より

薬の副作用100⑤

種類	商品名(一般名) / 分類	副作用
アレルギーの薬 (ステロイド)	セレスタミン(d-クロルフェニラミン/ベタメタゾン) 副腎皮質ステロイド プレドニン(プレドニゾロン) 副腎皮質ステロイド	多めの量を長く飲み続けると、高血圧や高血糖、胃潰瘍、骨粗鬆症、抑うつに襲われやすい副作用で顔の脂肪が増えて丸く膨れ上がる。中量(15~30mg)以上使用すると2~3週間で出現
痛風の薬	ウラリット(クエン酸K/ クエン酸Na) 酸性尿改善薬	尿をアルカリ化する薬。人によっては、下痢や軟便、胃の不快感などに見舞われる
	ザイロリック (アロプリノール) 尿酸生成抑制薬	発疹など皮膚の副作用が多い。臓器障害を伴う重症例もあり、断薬しても回復しにくい
	フェブリク(フェブキソstatt) 尿酸生成抑制薬	尿閉や腎不全を起こしやすい。利尿剤や降圧薬のARBを併用している高齢者に多い
便秘薬	アジャストA(センナエキス) 大腸刺激性下剤 アミティーザ(ルビプロストン) 上皮機能変容薬 アローゼン(センナ/センナ実) 大腸刺激性下剤 ブルゼニド(センノシド) 大腸刺激性下剤	長く使うと効き目が悪くなる。安易に增量を繰り返していると、腹痛を起こしやすくなる 新しいタイプの便秘治療薬。市販直後の調査で副作用(嘔吐、食欲減退など)が61.2%と高頻度 長期間飲むと、血液中のカリウム濃度が低下し、だるい、筋力低下、便秘、動悸などの症状が出る 大腸壁が肥大化して、便秘が悪化することも。薬をやめても、回復までに約半年~1年かかる
吐き気止め	ナウゼリン(ドンペリドン) ドバミン受容体拮抗薬 プリンペラン(メトクロプラミド) ドバミン受容体拮抗薬	セレネース(抗不安薬)、ドグマチール(抗うつ薬)と併用すると、手足の震えが強く出る 体のこわばりや舌のもつれなど薬剤性パーキンソン症状が出ることも。高齢女性に多い
頻尿の薬	ウリトス(イミダフェナシン) 抗コリン剤 ベシケア(ソリフェナシン) 抗コリン剤	急性緑内障の報告がある。目の激しい痛み、急激な視力の低下、視野の異常に襲われたら要注意
骨粗鬆症の薬	エピスタ(ラロキシフェン) SERM	目のかすみ、視力低下が報告されている。医者も薬の副作用を疑わず、見逃すことがある
	ビビアント(バゼドキシフェン) SERM	長時間の移動など、体を動かさない状態が続くと、血栓症のリスクが高まる可能性がある
抗うつ薬	サインバルタ(デュロキセチン) SNRI デパス(エチゾラム) チエノジアゼピン系	躁うつ病では、逆効果になりやすい。前立腺肥大症、緑内障、高血圧の病状が悪化することもある。眠気やめまいを起こしたり、注意力が低下することがある。服用後の車の運転は避けたほうがいい
認知症の薬	アリセプト(ドネペジル) コリンエステラーゼ阻害薬 メマリー(メマンチン) NMDA受容体拮抗薬 レミニール(ガランタミン) コリンエステラーゼ阻害薬	怒りっぽくなる、暴言を吐くなどの症状が出る。服用後、短期間に出了たときほど、副作用が強い 新しいタイプの薬。幻覚、錯乱に襲われて、奇声をあげたり、動いている車から飛び降りることも 副交感神経を優位にするため脈が遅くなり、失神、不整脈が起きる。18年、フランスで保険適用外に



おかしいな、
と思ったらすぐにチェックを

病院でいま
一番よく

使われている

「100の薬」と

その副作用

降圧剤・糖尿病薬・胃腸薬・
鎮痛剤・便秘薬・睡眠薬・
痛風薬・花粉症薬・
ステロイド……その不調、
薬のせいかもしれません

